

『回復期病診連携研修会』開催のお知らせ

平素より本会会務運営にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、熊本県からの委託事業である回復期病診連携推進事業は、平成26年4月の運営開始から既に1,800超もの紹介が行われ、大変順調に進んでおります。

平成29年度は、回復期病院における口腔ケア等に関する知識、技能の習得を目的として歯科医師、歯科衛生士を対象とした研修会を行う予定です。

つきましては、回復期病診連携研修会を下記のとおり開催いたしますので、貴会会員へご周知くださいますようお願い申し上げます。

記

日時	平成29年12月16日(土) 午後4時～6時30分
場所	熊本県歯科医師会館 4Fホール
対象	歯科医師、歯科衛生士、その他
演題	「食えること 生きること ～最期まで口から食べるために～」
講師	ふれあい歯科ごとう 五島朋幸 先生



<ご略歴>

1991年 日本歯科大学歯学部卒
1993年 日本歯科大学歯学部歯科補綴学教室第1講座助手
1997年 訪問歯科診療に取り組み始める
2003年 ふれあい歯科ごとう代表
日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科臨床准教授
日本歯科大学東京短期大学歯科衛生士科講師
東京医科歯科大学非常勤講師
慶応義塾大学非常勤講師

胃ろう大国日本。現代日本社会には40万人もの胃ろう造設者がいると言われていています。これは日本の医療水準の高さを表すとともに「口から食えること」を粗末にしていることをも表します。このような社会でわれわれにできることはないのでしょうか。胃ろう造設の大きな契機は誤嚥性肺炎。現在、日本人死因の第3位になった肺炎。肺炎で亡くなる方の90%以上は65歳以上の高齢者。高齢者の肺炎のほとんどが誤嚥性肺炎であることを考える、今、日本で起こっていることは「誤嚥性肺炎で亡くなる高齢者が急増している」ということなのです。この誤嚥性肺炎予防のためのケアとして口腔ケアがあります。さて、口腔ケアは正しく理解され、実践されているのでしょうか。…残念ながら全く理解されておらず、実践もされていません。だとすれば、口腔ケアを正しく理解することこそ胃ろう大国から抜け出すキーになるでしょう。

口腔ケアは決して難しいことではありません。何が難しくしているのか。それは口腔ケアの目的を見誤っているのです。口腔ケアの目的は「口をきれいにすること」ではありません。「食べられる口づくり」が真の目的であり、その過程で誤嚥性肺炎が予防されるのです。このような状況の中、東京都新宿区で平成21年7月「最期まで口から食べられる街、新宿」をモットーに新宿食支援研究会(新食研)を設立しました。われわれが考える食支援とは、「本人、家族に口から食べたいという希望がある、もしくは身体的に栄養ケアの必要がある人に対し、適切な栄養管理、経口摂取の維持、食を楽しんでもらうことを目的としてリスクマネジメントの視点を持ち、適切な支援を行うこと」です。新食研が目指す活動は、地域という単位で意識改革をし、医療職、介護職などという垣根も越え、一般市民参加で「何らかの食や栄養の異常を見つける人」、「適切な支援者につなぐ人」そして「結果を出す人」を地域で無限に作りだし、「社会に広める」ことです。